



『とりこしふくろう』
滑川まい/作
白泉社

ある雨降る夜のこと。ひよこの鳴き声が聞こえてきた。風で飛ばされて来たのかい? 「こまったこまったいへんだ」と思ったふくろうのおじいさん。おうちに招いて、ミルクとココアを温めて、お風呂に入れてあげて、お気に入りのガーゼのハンカチをお布団にして寝かせてあげて。「ほつ……」こまったこまったいへんだ。あの子はいつか早起きのにわたりになる。朝が苦手なふくろうのわたくしにちゃんとめんどうが見られるかな? そうだ! 夜のうちにいろいろ準備をしておけばいいんだ! そういつてふくろうのおじいさんはとりこし(心)くろうをしますが……。



今月は12冊!
※()内作者名

3秒でハッピーになれる超名言100 (ひすいこたろう) / ハーピーブレンド100 (しばたみか) / 破滅の王 (上田原夕里) / 「小さな命」を守る 事故虐待いじめ…証言から学ぶ予防と対策 (朝日新聞取材班) / その話は今日はやめておきましょう (井上荒野) / みそ汁はおかずです (瀬尾幸子) / ばけばけ (那須正幹) / 死ぬまでに一度は訪ねたいと東京の文学館 (増山かおり) / 収納のおさよさんが教えるキレイが続く片付け (おさよさん) / キンモクセイ (今野敏) / 昨日がなければ明日もない (宮部みゆき) / おきたま伝 承料理集 つなぐ (おきたま食文化研究会)



童の神
(今村翔吾/角川春樹事務所)

平安時代、「童」と呼ばれる者たちがいた。彼らは鬼、土蜘蛛、滝夜叉、山姥などの恐ろしい名前前で呼ばれ、京人から蔑まれていた。一方、安倍晴明が空前絶後の凶事と断じた日食の最中に、越後で生まれた桜咲丸は、父と故郷を奪った京人に復讐を誓っていた。様々な出逢いを経て桜咲丸は朝廷軍に決死の戦いを挑む。



未来職安
(柞刈湯葉/双葉社)

99%の「消費者」と1%の「生産者」。平成よりちょっと先の世界。完全自動運転、ネコポイド、警察ロボ、配達渡し鳥…いろんなことがオートの近未来、国民には厚生福祉省から生活基本金が支給されている。労働の必要はないけれど、職安の需要はまだまだ健在。今日も仕事を求めて妙なお客さんが現れる。

山形大学の地域連携型サークル「Team道草」
道草だよりでは、彼らの町内での活動を紹介します!
「金山町×大学生」で産まれる新たな可能性を模索します

道草便り Vol.11

地域ブランド「檜台の豆腐屋さん」

今回は檜台のお豆腐さん取材しました。3代目店主として家業を受け継いだ須藤さんは、現在も昔ながらの製法を守り、電話注文をメインにお豆腐を販売しています。

須藤さんは毎朝3時〜4時半に起きて、8時まではお豆腐作り。すぐにめがたま園や真室川などへ車を走らせ、配達します。取材中にもお豆腐をいただきましたが、しっかりとした味でどこにもない金山の名品だなと思いました。

日中は野菜づくりに動きます。トウモロコシや枝豆が好評とのこと。「売れると作っていて嬉しい」と継続して楽しく栽培しています。



1_昔ながらの作り方の本が受け継いでいる
2_衛生管理が評価されて県知事から賞状をいただいた
3-4_秘伝豆で作るお豆腐も一品だとか

ぶんげい

金山杉俳句会報 第四三五回

星川 きえ子

陛下より叙勲のほまれ豊の秋
ふと逢いし君から旧性冬うらら

岸 あき子

徹夜明け遅き朝餉や梅日和
悴む手母が両手で包みこむ

高橋 洋子

杉木立火矢千本の初日かな
幼馴染賀状に浮かぶ懐かしき

鵜沼 よし子

さ緑の湯気香り立つなづな粥
珈琲の苦き別れや雪蛭

阿部 サタエ

新年や齡重ねて白寿まで
教え子の賀状に偲ぶ幼な顔

伊藤 敏子

潮の香の入り来る茶房冬ぬくし
着痩せする質と言はれし実千両

かねやま紅風会

荒屋 阿部 勝子

冬景色墨絵の如き中田村
そくくさと仏具を磨く年の暮

荒屋 関 喜美子

葉牡丹や軒の風騒気にならず
買初めや運勢いのる新所帯

菅越 庄司 けみ子

春を待つ石の垣根の影深し
仰ぎみる樹氷林の虚しさよ

七日町 青柳 キエ子

元朝や陽のない空へ掌を合はせ
大寒や喉ノど落ちゆく煎茶粥

七日町 柴田 栖静

曇天に籠もる鈴の音初不動
水仙花香り抱きしめ友偲ぶ

羽場 坂本 徳太郎

身は孤老ツアーの膳や寒の鱈
薄曇り天然シヨウの四温かな

上 台 阿部 一步

選りよって風邪に好かれた身の不運
壁越しに風邪を励ますランドセル

七日町 村松 奈風

四温待つ人それぞれに夢抱き
慈悲の炎や地蔵の庭の飾り焚き